福井県民の将来ビジョン 分野別意見交換会 意見概要

（環境・自然保護）

〇人が大切である。川に遊びに来てもらえるような環境づくりが大切。
〇環境を産業として捉えてはどうか。富山県のある山では、入山料一人４００円、バス一人４００円を設定して、地域の雇用を維持している。富山県には立山、石川県には白山があるが、福井県の山は何かというのを考えるべきだ。
〇現在のコウノトリの保護活動を県全体で広範囲で行わないとコウノトリはいなくなる。農林、土木を「壊す事業」から「エコ事業」に転換しなければならない。
〇福井豪雨以来の治水工事で、美山の山々ではコンクリートが露出する光景が多く見られるようになった。そこで、ドングリの木を植えて山に緑を回復するようにした。
〇愛知県では県庁職員１０，０００人のうち、環境衛生部職員が３７７人配置されており、重点をおいているようだ。
〇以前から、地区環境保全員３００人ほどで１５８号線の草刈りをしているが、県外からのお客さんには窓口となる福井ＩＣ周辺がきれいだと好評を得ている。
〇学校の廃校舎で生ゴミの再利用を実施している。
〇子どもの頃からの環境教育が必要。花壇づくりは心を和ませる。
〇ゴミを捨てる人自体を少なくする必要がある。県庁・役場等の入札の方法で、環境重視の算定方法を導入してはどうか。
〇環境の活動において、どこの団体が、どこで、どのような活動をしているか分かるように看板などを設置するのはどうか。
〇１２００ＣＣの車が１年間で排出するＣＯ２は１７０本程度の木の吸収量と同等である。車社会の福井で、車に頼らない社会づくりが必要ではないか。
〇福井県庁職員で生態学を学んでいるものがいない。農林と環境が連携するためにもコーディネート役が重要である。県の事業は２～３年である。ＮＰＯには少しの助成が必要である。
〇環境活動をしている者にネットワークがないことが課題である。
〇ドイツでは市民農園、韓国では自治会のマーケットが定着している。日本では環境問題を子どもと一緒に取り組んでも子どもから、父母、祖父母へ伝わらない。大人が参加する環境活動のシステムが必要
〇資料中「先進国はこれまで豊かになりつつＣＯ２排出量を減らしたことはない」、「家庭に対して集団行動を促す環境施策の実行」、「ＣＯ２の問題は、削減のために投資する方がその後のエネルギーコストが下がり、得であるという構造をもっており、投資も必要」、「第二にマイナス成長を受け入れる社会の構築」という表現には違和感を覚える。また、「３Ｒ」が記載されていないのも気になる。

〇今後は自転車を利用しやすくするためのハード面を考える必要がある。また、エネルギーに関しては、バイオマスや地産地消の観点も必要。
〇環境問題に取り組んでいる地域のすぐそばの県道（福井大森河野線）で大量の除草剤を撒いていく光景が見られるがいかがなものか。